Dusty Strings

HAMMERED DULCIMER OWNER'S GUIDEBOOK

ダスティーストリングス社

1978年創業のダスティーストリングス社は、木材にこだわり、職人の腕と音楽を愛する楽器製作会社で、最高のハンマーダルシマーとハープを世に送り出してきました。ご質問があればいつでもメール、お電話でお尋ねください。または、お客様のことやお客様のダルシマーの様子をお聞かせくださるだけでも結構です。お手持ちのダスティーストリングスのハンマーダルシマーが、末永くお客様の音楽の喜びとなりますことを願っております。

© 1998 Dusty Strings
3450 16th Ave. W.・Seattle, WA 98119・（866） 634-1656
www.dustystrings.com

目次

ハンマーダルシマーとその歴史
ハンマーダルシマーの構造
メンテナンスとお手入れ
弦のメンテナンス
弦の種類
切れた弦の付け替え
全ての弦を張り替える
弦のノイズ
楽器の塗装
一般的な注意
乾燥地、寒冷地にお住まいの方に
ダルシマーの輸送
保証による修理
音階、ブリッジ、チューニング法（音の配置）
音階
高音ブリッジの音の配置
ダルシマーのチューニング法（音の配置）
ハンマーダルシマーのチューニングをする
電子チューナーを使う
気になること
ピッチ
耳で聞いてチューニングする
チューニングのヒント
ダルシマーを弾く
楽器の置き方
ハンマー
演奏
機種別 弦とチューニング

- D10, APPRENTICE & PRELUDE
- OVERTURE
- D35 & D45
- D300
- D500
- D550
- D600
- D650
- PD30
- PD40

ダスティーにお尋ねください

Dusty Strings ダスティーストリングス
ハンマーダルシマー ガイドブック

ハンマーダルシマーとその歴史

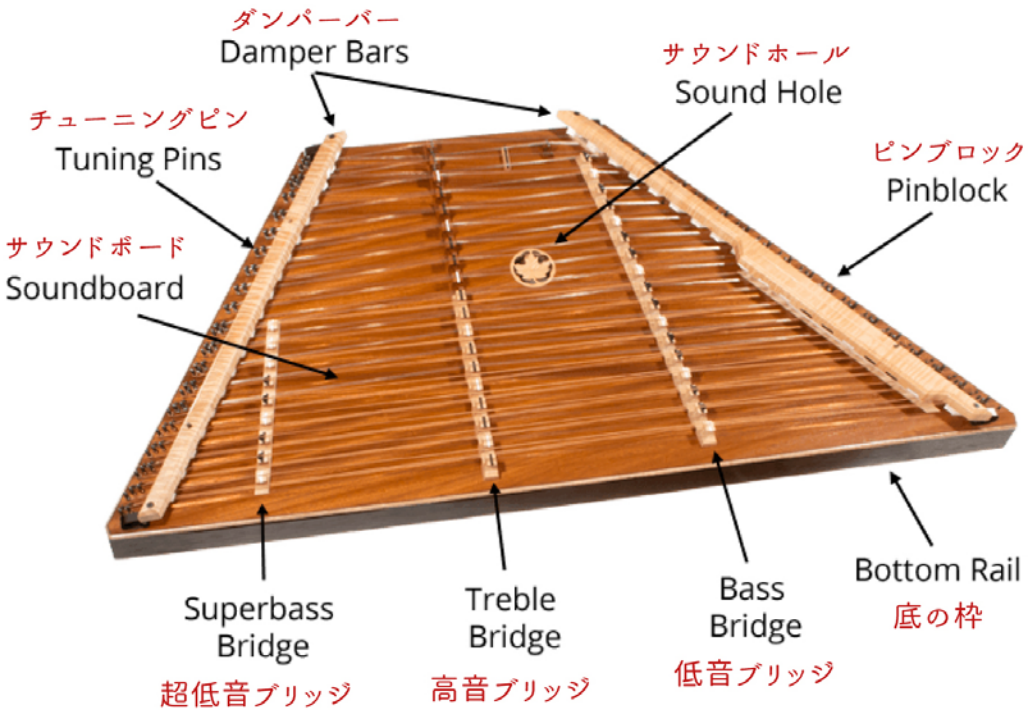
この小冊子は、新しくダルシマーを手に入れたお客様にお読みいただきたいと思います。お客様がハンマーダルシマーのことも、ダスティー社の楽器のこともあまりご存知ないという前提で、ダルシマーの歴史やチューニング、お手入れ、基本的な演奏テクニックなどを知っていただくためにこの小冊子を書きました。お客様の様々な疑問にお答えし、お客様がこの楽器とそこで使われる言葉に馴染んでいただく一助になることを願っています。

まず、ハンマーダルシマーの歴史について簡単に書きましょう。ハンマーダルシマーが新しい楽器ではないというと驚かれる方もおられますが、今あるたいがいの楽器よりも長い歴史を持っていて、何千年も前に中東で生まれたと考えられています。その子孫にはハープシコードやピアノがあります。ハンガリーの大きなシンバロンから中国のヤンチンまで、世界中のほとんどの文化にこのタイプの楽器があります。

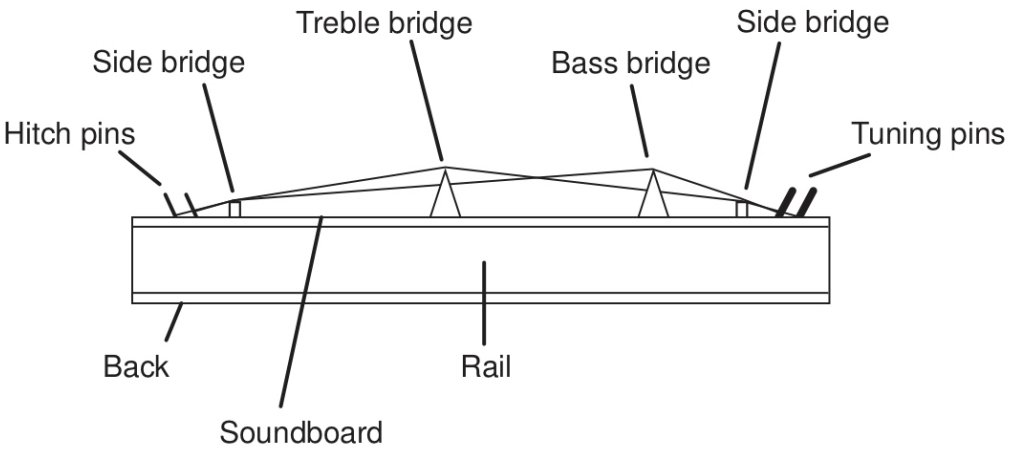
ハンマーダルシマーはおそらく初期の移住者によって、ヨーロッパからアメリカにもたらされたものと思われます。スクウェアダンスでよく使われ、その携帯性から伐採現場で「樵のピアノ」という異名を得ていました。1800年代後半から1900年代前半にかけてハンマーダルシマーは大量に造られ、その人気は絶頂に達しました。世紀の変わる頃にはダルシマーの使用は下火になり、あまり見られなくなりましたが、1970年代にフォークミュージックへの関心の高まりによってふたたび脚光を浴びるようになりました。今日ユニークで心地よい音色と比較的演奏しやすいことで再び注目を浴びています。

「ダルシマー」という言葉はラテン語やギリシャ語起源の“dulce”と“melos”から来ていて、"sweet tune”（美しい調べ）という意味になります。ハンマーダルシマーは「アパラチアンダルシマー」とか「マウンテンダルシマー」と呼ばれる楽器とは別のものです。これは弦が3本か4本あって、弦をはじいて演奏します。

ハンマーダルシマーの構造



メンテナンスとお手入れ



弦のメンテナンス

ハンマーダルシマーの利点の1つはほぼメンテナンス不要ということです。時々最低限の注意を払うだけで、ダルシマーは長い間いい状態を保ち、美しい音を奏でます。ギターや他の弦楽器の弦は、指の塩分や汗で腐食して頻繁に張り替えなければなりませんが、ダルシマーの弦はあまり手入れしなくても長い間持ちます。チューニングは指ではなくてギターのピックを使ってください。湿度の高い環境では、しばらくすると弦の表面に黒いシミや曇りが出てくるかもしれません。市販のクロスでこのシミを取ることができます。

弦の種類

ダスティーのダルシマーには3種類の弦を使っています。機種によって、スチールのピアノ線、燐青銅、巻いた弦のいずれかです。

スチールの弦は普通の状態ではあまり切れることはなく、いつまでもいい状態を保ちます。もし取り替える必要があれば、ループのついたギターかバンジョーの弦で太さの合ったものが、たいがいの楽器店にあります。またはダスティー特約店で買うか直接ダスティーに注文してください。

燐青銅の弦の場合は、どこででも手に入るわけではありません。取り替えが必要になったら、特約店を通すか直接ダスティーに注文してください。このタイプの弦はスチールと異なった物理的性質を持っていて、状況によっては素晴らしい音を出しますが、（例えばD45の低い弦の場合など）弱点もあります。燐青銅の弦はスチールの弦より引っ張る力に弱くて切れやすいのです。燐青銅の弦を同じ太さか1つ細いスチールの弦と取り替えて、その結果の音に満足できるか試してみてもかまいません。

ダスティーのダルシマーの中には、低音部に巻いた弦を使っているものがあります。それらの弦はギターの弦と同じで、時間がたつと音が鈍くなって張り替えが必要になります。音の変化は徐々に起こり変化に気付くのは難しいので、1年ごとに弦を替えるために覚えやすい日を選んでおくことをお勧めします。1年たったら新しい弦に替えて下さい。これらの弦は1本ずつでも注文できますし、それぞれのサイズの弦が2本以上入ったキットもあります。

切れた弦の付け替え

切れた弦を付け替えるには、チューニングピンを反時計回りに3、4回まわして、切れた弦を取り除いてください。チューニングピンには細かなネジ山が切ってあって、時計回りに回すとピンブロックに入っていくので、ここで反時計回りに回しておくことが重要なのです。新しい弦のループをダルシマーの反対側にあるヒッチピンに掛けてください。弦がメインブリッジの正しい位置に乗り、反対のブリッジの適切な穴を通っていることを確認して、チューニングピンまで延ばします。新しい弦を張る時、誰かに弦のループを押さえてもらうとうまくいきますが、1人で困った時には、他のもので工夫することもできます。例えばブルドッグクリップ（強力な紙ばさみ）や輪ゴムを試してみてください。
この先に進む前に、隣のチューニングピンを見てください。弦がきれいに巻かれ、余分な弦がはみ出ていません。これをお手本にしてほしいのです。きちんと固く巻かれたピンは美しいだけでなく、弦を正しい位置に固定します。尖った弦の端をピンの中に隠すと指を傷つけることがありません。
弦をチューニングピンの先5㎝の余裕を残して切ります。弦の端をピンの穴に入れ、動かないように押さえて、ピンを時計回りに回して弦をきれいに巻き取ります。弦の張りを保ち最初に通した穴から下に向かってきっちりと巻くようにしてください。弦が正しい位置にあり、他のピンや、弦、ブリッジに触れていないか確かめてください。ピンを3回くらい回して、ゆっくりとピッチを合わせていってください。最初はうまくいかなくても、練習すればスムーズにできるようになります。
　新しい弦は落ち着くまでは少し延びます。ですから最初のうちは頻繁にチューニングする必要があります。

全ての弦を張り替える

　環境にもよりますが、巻いた弦でなければ、弦は何年も長持ちます。巻いた弦は1年くらいで音が鈍り、定期的に取り換える必要があります。（5ページ「弦の種類」を見てください。）弦を全部取り替えるかどうか、いつ取り替えるかは、あなたの好みの問題です。弦が黒くなって錆びた感じで音色が鈍くなってきたと思ったら、替え時かもしれません。お近くのダスティーの特約店で弦の交換についてお尋ねになるか、ご自分でお調べになってください。時間のかかる作業ですが難しくはありません。
　1つぜひ覚えておいていただきたいことがあります。同時に外す弦は1組（2本）だけだということです。こうすることで楽器のテンションを保つことができ、ピッチを元に戻すのが容易になります。またブリッジの場所もズレなくて、後で高音ブリッジを5度の位置に戻すために、苦労しないですみます。（13ページ「チューニングのヒント」を見てください。）古い弦を取り除いて新しい弦を張る方法は、上の「切れた弦の付け替え」をお読みください。
　しかし弦を張り替える時に、同時にサウンドボードの掃除もしたくて、ブリッジもすべての弦も取り外してしまいたいと思われることがあるかもしれません。その場合は弦を外す前にブリッジの位置に印をつけてください。（マスキングテープを使うことをお勧めします。）ブリッジは接着されているのではありません。サウンドボードの掃除をする前に、下の「楽器の塗装」をお読みください。

弦のノイズ

ダルシマーを弾いた時にうなるようなノイズが聞こえたら、たぶん弦がサイドブリッジに密着していなくて、弦を打った時にブリッジとの間で振動しているのです。この可能性がある場合は、チューニングピンのすぐ横のところで弦を押さえて弦を打ってみてください。これでノイズが消えたらそれが原因です。弦を下げてサイドブリッジと密着するようにすればノイズは消えます。弦をピンブロックの方に押し付けながらチューニングピンを半回転くらい弛め、弦を押さえたままチューニングピンを締めてください。ヒッチピンの側のノイズでも同様にできます。右側の低音ブリッジの高い方の弦では、逆の方法で解決できることもあります。チューニングピンのところで弦を上にあげて、サイドブリッジから完全に弦を離した方が容易にできる場所があります。低音ブリッジの右側の弦は演奏に使わないのでこのやり方ができるのです。

楽器の塗装

選んだダルシマーによって、楽器の塗装は黒かナチュラルの半光沢のラッカー仕上げになります。どちらの場合もお手入れは柔らかな布で拭くだけです。指紋を消したい場合は布をガラス磨き用洗剤で少し湿らせてください。楽器や家具を磨く薬剤やオイルは必要ないし、お勧めできません。これは拭き取るのが難しく、チリや埃をひきつけやすく、将来塗装し直す時の妨げになる可能性があります。羽はたきや2番か3番の柔らかい絵筆を使って埃を溜めないようにするのが一番です。絵筆は特にヒッチピンやチューニングピンの周りの埃を取るのに役に立ちます。

サウンドボードは定規の先に靴下をかぶせた物できれいにできます。先に述べたやり方で埃が浮いたらエアダスターで吹き飛ばすのもいい方法です。ダルシマーをケースから出したままにする場合は、柔らかな布で作ったカバーを使うと埃を避けることができます。長く美しさを保つために一番大切なことは埃をつけないことです。埃をつけたままにしておくと、湿気や脂分を寄せ付け、取りにくくなります。

一般的な注意

温度や湿度の急激な変化からダルシマーを守ってください。直射日光や暑い車内や凍りつくような屋根裏部屋は避けてください。車の中の温度がどれ程短時間で高温になって、楽器が危険にさらされるか、多くの方は認識しておられません。これはペットにとっても同様に危険なので、動物愛護協会は次のような驚くべき情報を出しています。「気温が28℃の日には、直射日光にさらした車でも、日陰で窓を少し開けた車でも、10分で39℃になり、30分で50℃～70℃にもなってしまいます。」

楽器に使われている接着剤は、54℃くらいで柔らかくなり溶け始めます。一度溶けると接着剤はその接着力を失い、弦の張力に晒されている楽器はばらばらに壊れてしまう危険があります。車のドアを開けてみると楽器がばらばらになっていた！ということもあり得るのです。実際には気付かないうちに徐々に接着剤が柔らかくなって楽器の分解が始まり、その結果はずっと後になって現れることが多いでしょう。あなたにとって快適な場所は楽器にとっても快適で、あなたにとって快適でない場所は楽器にも快適ではないのです。ですからレストランに入る時は、ダルシマーも連れて行ってください。ダルシマーを断熱性のケース（ダスティー社のコーデュラと発泡スチロールのケースのようなもの）に入れて運ぶのも急激な温度変化から楽器を守るのにいいでしょう。

乾燥地、寒冷地にお住まいの方に

乾燥地、寒冷地にお住まいで、楽器が天然木のサウンドボードの場合、楽器がひび割れないように保護する必要があります。極端な乾燥による損傷は保証の対象にはなりません。それは楽器製作者にはどうにもならないことだからです。

湿度が変化した時に楽器には次のようなことが起こります。1週間以内に木材の水分含有量が周りの環境と同じになります。湿度が上がると木材は水分を吸収して膨張してきます。膨張しすぎると歪んでくることもあります。湿度が下がると数日の間に木は水分を失って縮んできます。縮み過ぎるとひび割れを起こします。ハンマーダルシマーもそうですが、大きなサウンドボードを持つ楽器はサウンドボードの小さい楽器（ギターやバイオリンなど）より膨張や収縮の危険に対して弱いのです。ですからギターが大丈夫だからハンマーダルシマーも大丈夫！とは思わないでください。

楽器製作者にとって大きな課題は、どんな激しい湿度変化にも適応するサウンドボードを作ることです。ダスティー社では、ハンマーダルシマーを接着剤で糊付けする前に、サウンドボードと背面を湿度43%～45%にコントロールされた大気に馴染ませます。長年このような楽器を作り湿度のデータを記録してきて、このやり方が実際の環境での湿度の大きな変化に適応しやすいとわかっているからです。多くの木製楽器について言えることですが、ダルシマーも湿度40%～50%が最も具合がいいのです。その湿度の範囲でなくても大丈夫なのですが、そこから離れていくほどリスクが高まっていきます。

乾燥したところにお住まいなら、あるいは寒い季節なら、部屋を加湿するとか、楽器用加湿器を使うなどして、楽器の湿度をコントロールしてください。

部屋や家を加湿するときは、湿度が適正な範囲にあることがわかるように、楽器のそばに湿度計を置いて数値をチェックしてください。湿度計はダスティーでも他の楽器店でも購入できます。必要ならダスティーにお電話ください。

湿度計をお持ちでないなら、または部屋の加湿器が十分でないなら、楽器用加湿器のついたケースに保管するべきです。これもダスティーや他の楽器店で購入できます。演奏しないときにはダルシマーを加湿器付きのケースに戻してください。乾燥から過湿に急激に振れることはどんな楽器にとっても厳しいことです。周りの湿度が安全な範囲（40%前後）に収まったら加湿器を止めてください。湿度が高すぎると膨れて歪んできます。

楽器を適正な湿度に置くことは楽器の寿命を伸ばす最高の方法で、チューニング、掃除、弦を張り替えることにも増して、ダルシマーにとって大切なメンテナンスなのです。

ダルシマーの輸送

ダスティー社では、それぞれの楽器に合った、クッション、ジッパー、肩掛けストラップのついたコーデュラ性のケースを作っています。このケースはたいがいの輸送手段で当ったりぶつかったりすることから楽器を守ってくれます。車で移動する際は、ブリッジの面を上にして他の荷物の上にのせて、滑って動かないように工夫してください。またはケースのハンドルが上になるように立てて置いて、倒れないように何かで支えてもいいでしょう。長時間のドライブで窓から日差しがある場合は、アルミコーティングのシートで日光をさえぎってください。シートの下では温度は10〜20%低くなります。「一般的な注意」（7ページ）に書いた楽器を駐車中の車の中に放置する危険について、必ずお読みください。

飛行機で移動することは、なかなか大変なことです。ダルシマーを持って頻繁に飛行機に乗る人の中には、特注の飛行機用ケースを作っている人もいますが、これはかなり高価で重いものです。一例をあげるとColorado Case Company （800-340-0809、www.coloradocase.com）が頑丈で軽量な硬質フォームのケースを作っていて、役に立ちます。

それほど頻繁に飛行機を使わない場合は、UPS（米国の小口貨物輸送会社）で送る時のように箱詰めし、他の荷物と一緒に預けることでしょう。問題はケースに入れたダルシマーが入る大きな箱を見つけることです。緩衝材を入れるために数インチ余分に必要です。柔らかな発砲剤か粒状発泡スチロールを使って、楽器が動かないようにきちんと箱詰めしてください。小さなダルシマーの場合はお近くの楽器店でギターの箱をもらって使えるかもしれません。大きな楽器の場合はパッキングサービスで箱を見つける必要があります。もしお宅に大きな箱を置く場所があるのなら、ダルシマーを購入した時の箱を残しておくのもいい考えです。

保証による修理

ダスティーストリングスの楽器には、最初にお買いになった方に5年間の保証が付いています。お買い求めになりましたら、必ず登録書類（warranty card）を送ってください。私たちの方で登録されていませんと、保証による修理を受ける時に購入した証拠を提出していただく必要が出てくるかもしれません。保証についてご質問がありましたら、購入されたお店にお尋ねください。その故障が保証でカバーされるものかどうか、また/あるいは地元で直せるものかどうか（輸送コストを抑え、楽器を使えない時間を最短にできます）査定するお手伝いができるでしょう。見積もりや修理のために楽器を送り返す場合は、前もって確認のお電話ください（代理店がしてくれていることもあります）。上の章で書いたように箱詰めして、料金前払いで保険をつけて送ってください。問題の箇所や問題にかかわりのある状況（例：落とした、事故、天候等）を記述して同梱してください。登録書類を送っていただいていない場合は、購入時の領収書を添えてください。

音階、ブリッジ、チューニング法（音の配置）

高音ブリッジの音の配置についての一般的な知識はもちろん、ダルシマーのチューニング法や長音階について知っていると、ダルシマーの演奏（やチューニング！）に非常に役に立ちます。この章では伝統的な5度の調弦について説明します。もしピアノダルシマー（ダスティーのPD40）をお持ちなら、ここで述べることの一部は直接関係ないかもしれませんし、あなたの機種に合わせて考える必要があるかもしれません。

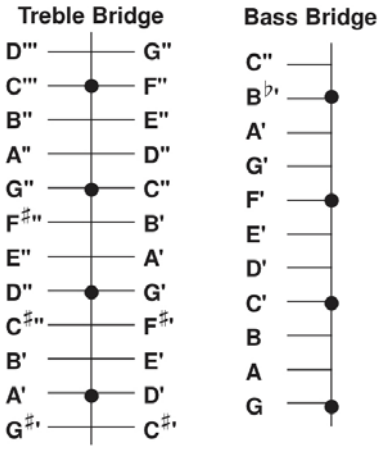
音階

単純に言ってしまうと、長音階というのは「ドレミファソラシド」のように聞こえる一連の8つの音のことです。長音階の中の8つの音には特別な関係があり、大切なのは、長音階はどの音から始まっても、音と音の間隔が変わらない限り「ドレミ…」と聞こえるということです。長音階の最初の音は「基音」とか「主音」と呼ばれ、演奏する調の名前になります。

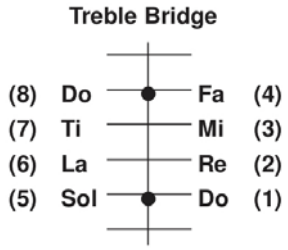
高音ブリッジの音の配置

長音階の最初の音（ド）と5番目の音（ソ）の間隔を「5度」と言います。ダルシマーの高音ブリッジは、その上を通る弦を正確に5度の差になるように2つに分けています。つまりある弦のブリッジの右側が「ド」なら、同じ弦の左側は「ソ」になります。

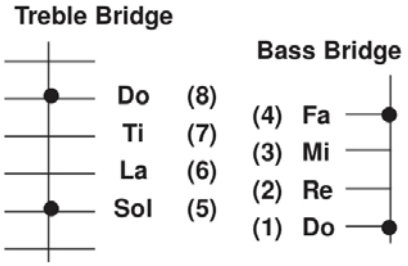
ダルシマーのチューニング法（音の配置）



ハンマーダルシマーは長音階の単純なパターンで配列されていて、伝統音楽で最も普通に使われる調、D（ニ長調）G（ト長調）C（ハ長調）F（へ長調）A（イ長調）が見つけやすくなっています。右の図は高音ブリッジが12弦、低音ブリッジが11弦ある基本的なダルシマー（D10、アパレンティス、プレリュード）のチューニング法（音の配置）を示しています。



図の中の大きな黒丸は長音階が始まるところを示しています。実際の楽器上では白のブリッジマーカーで示されています。高音ブリッジは両側、低音ブリッジは左側だけを演奏に使います。長音階を低音ブリッジから始める時は、白いマーカーのところから始めて、次の白いマーカーまで上に向かって進んでいきます。それから高音ブリッジの、最初に弾き始めた音の隣にある白いマーカーに移ります。高音ブリッジから長音階を始める時は、白いマーカーから始めて、右側を上がっていきます。次の白いマーカーまで行ったら、左側へ渡って、弾き始めの白いマーカーへ戻ります。このページの上の2つの図の（　）のついた数字を見てください。



このパターンに慣れたら、上に述べたすべての長音階を見つけてください。ダルシマーはいくつもの長音階を重ねるようにして作られていますので、繰り返される音がたくさんあります。このおかげで演奏パターンの自由度が増し、チューニングのスピードを上げることができます。

ハンマーダルシマーのチューニングをする

D Major:	D	E	F♯	G	A	B	C♯	D
G Major:	G	A	B	C	D	E	F♯	G
C Major:	C	D	E	F	G	A	B	C
F Major:	F	G	A	B♭	C	D	E	F

他の弦楽器も同じですが、ハンマーダルシマーもチューニングを学ぶことが演奏を学ぶ上での重要な一部になります。チューニングに厳しくなるほど、きちんとチューニングできた楽器の良さがわかるようになります。素早くチュ

ーニングするテクニックを身に着けるには少し時間がかかるかもしれませんが、諦めたり、嫌がったりしないでください。きちんとチューニングできた楽器で演奏する楽しみはあなた次第なのです。ハンマーダルシマーを所有し演奏する満足は、時間を取ってダルシマーを正しいチューニングにしておくことで、さらに高めることができます。

次にチューニングについて述べている章はかなり詳しく、経験がなくても大丈夫です。少しでもチューニングの経験があれば、ここは読み飛ばして、ハンマーダルシマーに独特なものに目を向けたくなるかもしれません。

電子チューナーを使う

電子チューナーはもっともポピュラーで正確で使いやすいチューニングの道具です。この小さな道具は弦のピッチを聞き取り、その音がどのくらい高いか低いかをメーターやランプを使って教えてくれます。あとはチューナーが合っていると教えてくれるまで、弦を張ったり弛めたりするだけです。できるだけ早く電子チューナーをお求めになることをお勧めします。少し練習すれば短時間でチューニングができるようになり、あとはゆっくりとダルシマーの練習ができます。

チューニングの順序。電子チューナーを使うのなら、どの音から始めるかは問題ではありません。一般的なやり方は、低音ブリッジの一番低い音から始めて、低音ブリッジを上に上がっていき、それから高音ブリッジの低い音へ行って、そこから高音ブリッジの片側を上がっていく方法です。高音ブリッジの反対側は自動的に合ってきます。このように順序だってすると、どこをチューニングしたか、わからなくなる心配がありません。

気になること

チューニングの難しさ。ダルシマーは他の弦楽器と比べて特にチューニングが難しいわけではありません。弦のピッチをある音に合わせるという基本的なことは同じです。ただ違いは他の楽器より弦が多いということです。しかし最初思ったよりもずっと簡単にできるいくつかの手順と方法があります。楽器のチューニングは練習すればできることです。最初は不安かもしれませんが、誰でもできるようになります。

一度チューニングしたらどのくらい持つか？チューニングした楽器が正しい音に保たれているのはどのくらいの間か、これは楽器によって様々です。一般的には音が狂う原因の1つは温度の変化です。暑いと金属が伸びて弦の音を低くします。寒いと反対のことが起こります。木材が圧縮されること、楽器が落ち着いてくること、時間と共に弦が伸びてくることなども音を低くします。使い込んだ楽器より新しい楽器や弦を張り替えたものが狂いやすいのはこのためです。

環境があまり変わらなければ、ダルシマーはかなり長い間音が狂いません。そして幸いなことに、どの音も同じように低くなる傾向があります。つまり音同士の関係は保たれ、他の人と一緒に演奏するのでなければ、そのまま演奏できるのです。

音が狂わないようにするにはどうすればいいか。温度変化をできるだけ少なくすることなら何でも役に立ちます。ストーブや暖房機のダクトのそばや、大きな窓の近くに置かないでください。環境の違うところへ持っていく時は、断熱材のケースに入れて、ケースから出す前に時間をかけてゆっくりと新しい気温になれさせてください。直射日光の許での演奏はできるだけ避けてください。基本的に温度の変化は影響があります。

しかし、使わない時にはダルシマーをケースにしまっておくべきだとは思わないでください。ダルシマーを手の届くところに置いておけば、ずっとよく演奏することになると思います。ダルシマーの脚をお求めになって、その上に置いておくことをお勧めします。

新しい楽器や音がひどく狂った楽器を扱うには。ダルシマーは弦の本数が多いので、非常に強い張力がかかります。新しい楽器や完全に音が狂っている楽器の場合、ピッチを合わせるために必要な張力が楽器

全体をさらに圧縮します。全ての弦のチューニングが終わるころには、最初にチューニングした弦は、また低くなってしまっているということも十分考えられます。こういう場合は全体を2，3回チューニングしなければならないかもしれません。最初の1回か2回は大雑把なチューニングにして、最後に正確にチューニングしてください。きちんとチューニングされた使いこんだ楽器ではこういうことはあまり起こりません。

ピッチ

弦は打たれると振えて、空気中に波を起こします。海の波とよく似ています。この波があなたの耳を打ち、「音」として聞こえます。その「音」のピッチは音の波があなたの耳に届く回数によって変わります。（1秒間にいくつの波が届くか）その回数はそれぞれの音によって決まっていて、計測可能です。中央のC（ド）の上のA（ラ）は1秒440回というのが一般的に受け入れられている数値です。他の音はこれを基準に決まります。「コンサートピッチ」とか「絶対音高」とかいうのはこのA440に基づいているのです。でも、これは覚えておいてください。その楽器全体がコンサートピッチと比べて低くても高くても、すべての音の相互の関係が正しければ、その楽器は「音があって」聞こえるのです。

耳で聞いてチューニングする

基準にするもの。チューニングする時に基準にするものは、ピッチを合わせられるものなら何でもいいのです。外の音源でもいいし、自分のダルシマーの他の弦でもいいのです。最も基本的な基準は音叉、叩くとあるピッチで振動する金属の道具です。振動している音叉の尻の方をサウンドボードに触れると、音叉の音が増幅されます。

クロマチック調子笛は円形のハーモニカのような安価なチューニングの道具で、1オクターブにわたって、♯、♭を含むすべての音を出すことができます。音域は色々で、最も使いやすいのはCからCのモデルです。できれば笛を口にくわえたまま音を選んで吹けるセレクター付きのものを選んでください。これですと両手をチューニングのために空けておくことができます。

別の楽器に合わせるというのも1つの方法です。実際、ダルシマーのピッチを他の弦を使った楽器（例えばピアノ）に合わせることは、音叉や調子笛を使うよりも簡単です。

ピッチを合わせる。チューニングについて述べることは結局ピッチを合わせるということになります。基準になる音を聞いて、それに合うように弦を張ったり、弛めたりします。これはとても単純なことなのですが、面倒なことでもあります。物理的にも心理的にも環境が大きく影響します。1人で静かな部屋でチューニングするのは、にぎやかなパブの舞台でチューニングするのよりも、確かに簡単です。

チューニングを怖がる人も多いし、自分では出来ないと思っている人もいます。どちらの考えも根拠のないものです。ほとんど誰でも練習すれば出来るようになるものです。練習に時間がかかる場合もありますが、チューニングは才能ではなく学ぶことができる技術です。ひとつ覚えておいてほしいこと：ダルシマーを弾くためにチューニングするだけでなく、チューニングそのものを練習してください。

ピッチを合わせようとするとき、自分の弦を調整して鳴らしながら、基準となる音が聞けなければなりません。チューニングしながら調子笛を吹き続けてください。― その方が音を覚えてするよりもずっと簡単です。基準となる音を聞いたら、可能性は3つしかありません。1）あなたの弦の方が低い（ゆるい）、2）あなたの弦の方が高い（きつい）、3）あなたの弦の音があっている。耳の訓練の目的はこの3つの状況の違いがわかるようになることです。

基準となる音を鳴らしながら、自分の楽器の弦のピッチを変えていきます。弦の音が明らかに高くなるようにきつく張って、それからゆっくりと弛め、音が低くなっていき、基準の音と一緒になるのを聞いてください。それから明らかに低いところまで落としてください。今度は反対にしてみてください。それか

ら別の弦でもしてみてください。高いか低いかの違いが分かるように練習してください。2つの音が1つに重なる時がわかるように練習してください。低い方から始めてだんだん上げていく方が、音が合った時わかりやすいという人もいます。他の弦でもやってみてください。すぐにコツがつかめます。

やっているうちに、2つの音が近づいてくると、「ワゥワゥワゥ」というような奇妙な振動が聞こえるかもしれません。この現象をチューニングの助けに使うことができます。この振動は2つの音が近づいてくるとだんだん遅くなって、音が完全に一致した時には消えてしまいます。

音程とは2つの音の間の距離です。中央のCと次のCの間をオクターブと言います。この音程は聞き取りやすく、合わせやすいものです。基準としている音が、必要としている音の1オクターブ下だったとしても、同じようにチューニングすることができます。他の間隔、特に長調のドとソも聞き取りやすく、練習すればこの間隔もチューニングのスピードアップに利用することができます。

チューニングの手順。さて実際のチューニングについてです。調子笛を持っているのなら、一番直接的なやり方は、調子笛にあるすべての音を合わせてみることです。笛にある1オクターブの音が合わせられたら、チューニング法（音の配置）の知識で、他の音も合わせることができます。例えば、高音ブリッジの右側のG（ソ）を調弦したら、同時に左側のD（レ）も合っています。今度はそのDを使って高音ブリッジの上の方の右にあるDを合わせることができます。同様に次のE（ミ）は高音ブリッジの左にあるEを使って合わせることができます。幾つかの音はオクターブの音程を使う必要があります。実際1オクターブの差を聞き取れるようになったら、調子笛を使ってダルシマーのすべての音をチューニングすることができます。

ピアノに合わせる方が簡単です。順番にピアノに合わせていけばいいのです。

音叉や調子笛の1つの音からチューニングを始め、他のすべての音もすべて合っていると耳で聞き取れる人もいます。これは普通音階を使ってします。ドから始めて、順番に歌っていきます。耳の訓練が進んだら、やがてできるようになります。

もう1つのやり方は、左右交互にチューニングする方法です。高音ブリッジの音の配列によっておこる可能性を考えてみましょう。前に述べたように、右側のDをチューニングすると、左側のAもチューニングできます。このAを右側のAをチューニングするのに使います。それが今度は左側のEになります。このEを右側のEをチューニングするのに使い、この要領で続けます。このやり方でほとんどすべての音がチューニングできます。

結論としてこれを心にとどめておいてください。もし音が外れていると気づくことができるのなら、音を合わせる技を身に着けることができるということです。

チューニングのヒント

弦をはじく時はギターのピックを使って下さい。こうすると歯切れのいい大きな音がして、1つ1つの音をはっきりと聞き、弦を1本ずつチューニングできます。

高音ブリッジの片側の全部、または一部のチューニングが終わったら、そのブリッジの両側を使って長音階を弾いてみてください。もしブリッジの両側で音階が正しくなかったら、弦がブリッジを越えるところの摩擦でブリッジの両側の張力が同じになっていないのです。一番単純な解決法は、弦をつまんで持ち上げて摩擦を失くし、左側を先にチューニングして、右側を後からチェックしてみることです。高音ブリッジのチューニングピンから遠い方を先にチューニングする人もいます。こうすると、先にチューニングした方の音に影響を与えないで、チューニングピンに近い方の狂った音も微調整することができます。このテクニックは弦とブリッジの間の摩擦に対応するものです。弦の摩擦の扱い方を知ることは経験と自分のダルシマーを色々といじってみるところから生まれます。大きな問題ではありませんが時々遭遇することです。

この方法でも高音ブリッジの左右のアンバランスを改善できないなら、ブリッジが少し動いている可能性があります。ブリッジはのり付けされていません。正確なチューニングのためにはブリッジが正しい位置にあることが必須です。これを調べるには、前述の「チューニングして左右の弦の張力を均等にする」

を高音ブリッジの一番上の弦でしてみます。もし右側が合っても左側が高ければ、ブリッジの端を右に叩いてください。そしてもう一度チューニングして計測してください。右が正しくて左が低ければ、ブリッジの端を左に叩いてください。たくさん移動させる必要はありません。ほんのわずかな差でバランスが取れているか否か変わるのです。高音ブリッジの一番下の端でも同じように計って動かしてください。こうすればブリッジは正しい位置に戻ります。

ブリッジが真っ直ぐであるということはとても大事です。ブリッジの上の方だけ動かすとか下の方だけ動かすなど、ブリッジが曲がるようなことはしないでください。定規など真っ直ぐな物をブリッジに沿わして、ブリッジが真っ直ぐなことを確かめてください。上に書いたことをした後でブリッジが曲がっていることに気が付いたら、ブリッジの真ん中を叩いてまっすぐにする必要があります。もしこのやり方がよくわからなければ、特約店に尋ねるか、ダスティーに電話してください。

ダルシマーを弾く

ハンマーダルシマーの最も素晴らしい点は、どんな単純なメロディーも美しく豊かに響く音楽に替える力です。この楽器が本来持っている美しい音が、響きと一体になって音のイリュージョンを生み出します。実際の音の総和よりも多くの音楽があふれ出てくるように感じられます。これはダルシマーの魅力の1つで、初心者にもシンプルな曲でも即座に満足を与えてくれます。

ハンマーダルシマーを弾く上で色々とアドバイスされると思いますが、覚えておいてほしい大切なことが1つあります。ダルシマーは民族楽器で、民族音楽の本質はテクニックではなくて個人の楽しみだということです。あなたがすぐにもダルシマーを始められるようにお教えすることはありますが、他のやり方でもいいのです。民族音楽に「絶対」はありません。どんなやり方でもあなたがその楽器で音楽ができるのなら、それでいいのです。

楽器の置き方

ほとんどの人はダルシマーの長い方を自分の方に向けて演奏します。すべての音に手が届く限りは、立っても座っても大した差はありません。ダルシマーを床の上やテーブルの上に置いた時、ダルシマーの上の方を持ちあげて裏に音が響く余裕が出来たら、音色もボリュームも大きくなることに気付かれるでしょう。またダルシマーを自分の方に傾けた方が演奏しやすくなります。ダルシマーの裏にネジ式の脚をつけられるような挿入口があります。短い脚はテーブルの上にのせて適切な傾斜にダルシマーを立ち上げるようになっています。長い脚は椅子に座って演奏でき、脚がダルシマーを支え、長い辺が膝のあたりに来ます。これは持ち運びに便利で、値段も高くありません。背面が自由に振動するようにスタンドの上にのせれば、音も大きくなり、どこで演奏するのにも適当な高さが確保されます。また、こうしておくといつもダルシマーが目に入って、もっと演奏したくなるでしょう。短い脚、長い脚は両方とも折り畳みの木の脚で調整可能なセットになっています。詳しいことは取扱店か、直接ダスティーまでお尋ねください。

ハンマー

ハンマーにも様々な種類があります。ダスティーのダルシマーについている片面のハンマーはバランスの取れたデザインと構造で、あらゆるタイプの演奏に向いています。硬い木でできていて大きな音がします。ダスティーではレザーを被せたものも作っていて、優しい音色でムード音楽や多様な音楽に向いています。ダスティーのクロマチックシリーズについている両面のハンマーは、1つのハンマーに木の面とレザ

ーを張った面がついています。ハンマーの好みは人それぞれです。ハンマーの種類は、片面か両面か、何かを被せているかいないか、何を被せているか、長さ、木の種類、持ち手の形、ハンマーの表面、重さ、バランスなどがあります。どれが一番自分に合うか、できるだけたくさんのハンマーを試してみてください。ダスティーでは片面のハンマーを2種類作っていて、どちらも木のものとレザーを貼ったものがあります。両面のものも2つの形があります。また片側がレザーでもう片側がフェルトのものもあります。

演奏

ダルシマーを弾く時、最初は弦を見るのが大変でしょう。練習すればすぐに慣れます。ダルシマーを自分の方に傾ければ、だいぶ見やすくなります。傾ける角度はお好みです。弦そのものを見るよりも、弦がブリッジを横切るところの黒と白のブリッジキャップを見るといいでしょう。ブリッジキャップの方が見やすいし、目印になります。

ハンマーは親指と人差し指で持ち、ブリッジから3㎝程のところを叩きます。ハンマーを手にもったら何回か軽く振って感触を確かめ、鋭く弦を打ち、ハンマーが跳ね返ったら動きを止めます。弦を打つ動きは手首から先で行い、肘から動かすのではありません。確実にはっきりした音が打てるようになるまでこれを続けてください。もしハンマーを少しゆるく持って、親指にもう少し力を入れて、最初に跳ね返ってもこの動きを止めなければ、ハンマーが連打するように弦を打つことに気が付くでしょう。これはトリルと言って、よくある装飾です。

練習を始めるのにいい方法は、長音階を弾いてみることです。長音階がどこにあるか、どのように並んでいるかは、「音階、ブリッジ、チューニング法（音の配置）」（9ページ）を見てください。自信をもって弾いてください。ダルシマーで一番いい音色を出すために十分な力を入れてください。おずおずと弾くと、不快で弱弱しい不明瞭な音になります。自信を持つと精確さと音が磨かれます。

ハンマーダルシマーの教材はたくさんありますが、歌を覚える一番普通の方法は耳で聞くことでしょう。楽譜が読めなくてもいいのです。聞きなれたメロディーの歌を選んで、ハンマーの動きに置き換えるのです。一番簡単な演奏法は左右の手を交互に使うことですが、時には反対の手が邪魔になって、違うやり方をしたいこともあると思います。例えば「おおスザンナ」のような聞きなれた歌から始めて、片手で音を探りながら弾いてみてください。このような簡単な曲は普通その調の主音、つまり音階の最初の音で始まります。（DメジャーならD、GメジャーならG／ニ長調ならレ、ト長調ならソ）もし最初の音が主音でなければ、その音階の3度（ミ）を試してみてください。次に両手で交互に弾いてみてください。両手が調和するように努力して、どちらの手でも弾けるようにしてください。弾きながらトリルを入れてみてください。

練習すれば、弦の間隔に反射的に反応できるようになります。ハンマーは手の延長のようになり、リズミカルに動くようになります。演奏に取り入れてみたい装飾を2，3挙げておきます。

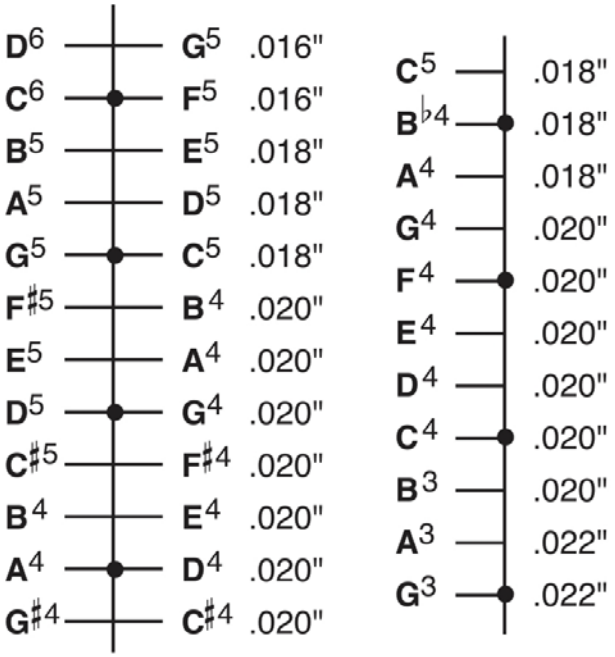
コード―2つの音を同時に打ちます。見つけやすい組み合わせは、3度、5度、オクターブです。（ド、ミ、ソ、ド）

アルペジオ―それぞれの調でのド、ミ、ソ、ドの音を素早くつなげて打ちます。

ドローン―メロディーの音の間に主音（ド）を挟み込みます。メロディーを演奏するときにずっと1つの音を鳴らし続けるバグパイプに似ています。マウンテンダルシマーもドローンを使います。

生で聞いてもレコードで聞いてもかまいません。録音されたダルシマーの音楽も沢山手に入ります。また、本や、本＋CD、ビデオ、DVDなど自学教材も沢山あります。お店で探したり、ダスティーストリングスに尋ねてみてください。”Dulcimer Players News” に登録すれば、年に4回、ダルシマーの演奏者、フェスティバル、曲、テクニック、CDなど、ダルシマーに関する情報を配信しています。
（www.dpnews.com）

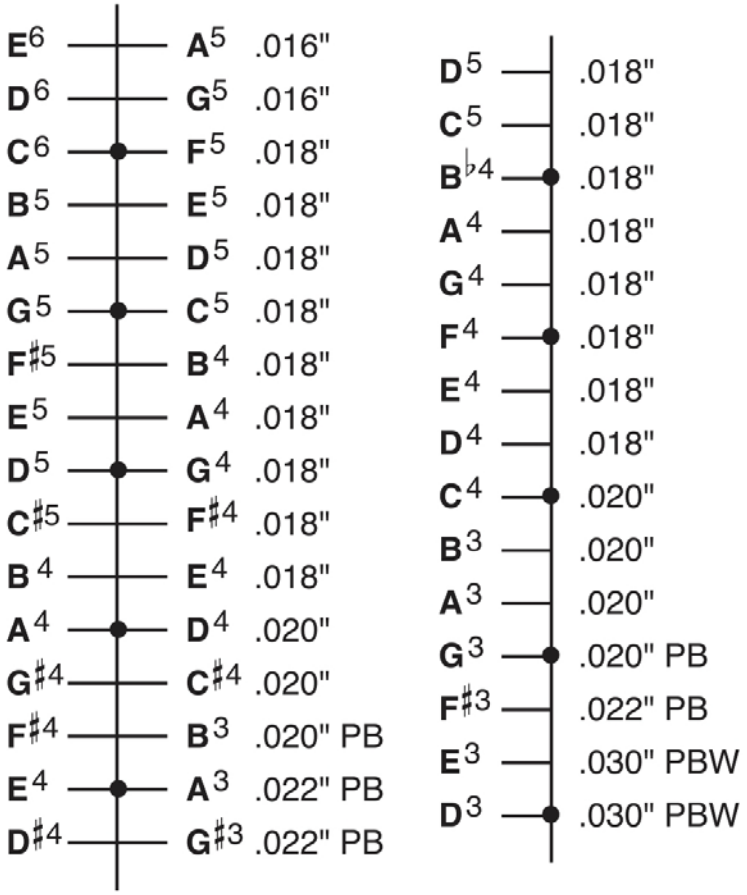
D10, APPRENTICE & PRELUDE



Range: 2½ octaves (G^3 – D^6)

● = marked courses

All strings are plain steel loop end. Wire gauges are shown in inches.
Small numbers indicate octaves (C^4 is middle C).

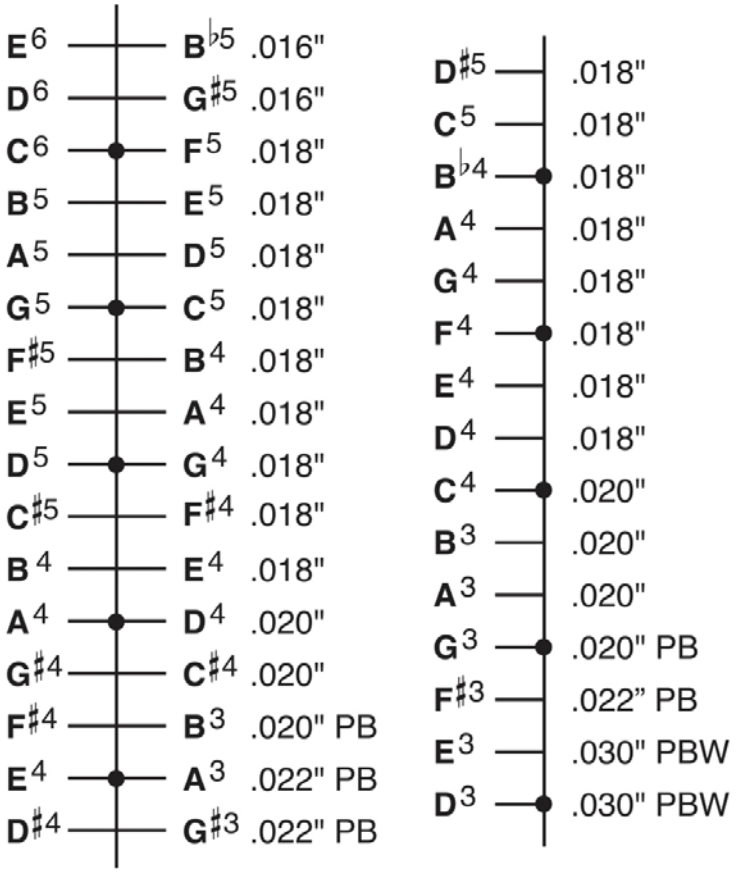


Range: 3 octaves (D^3 – E^6)

● = marked courses
PB = phosphor bronze wire
PBW = phosphor bronze wound

All strings are loop end. Wire gauges are shown in inches.
Unspecified strings are plain steel wire.
Small numbers indicate octaves (C^4 is middle C).

D35 & D45

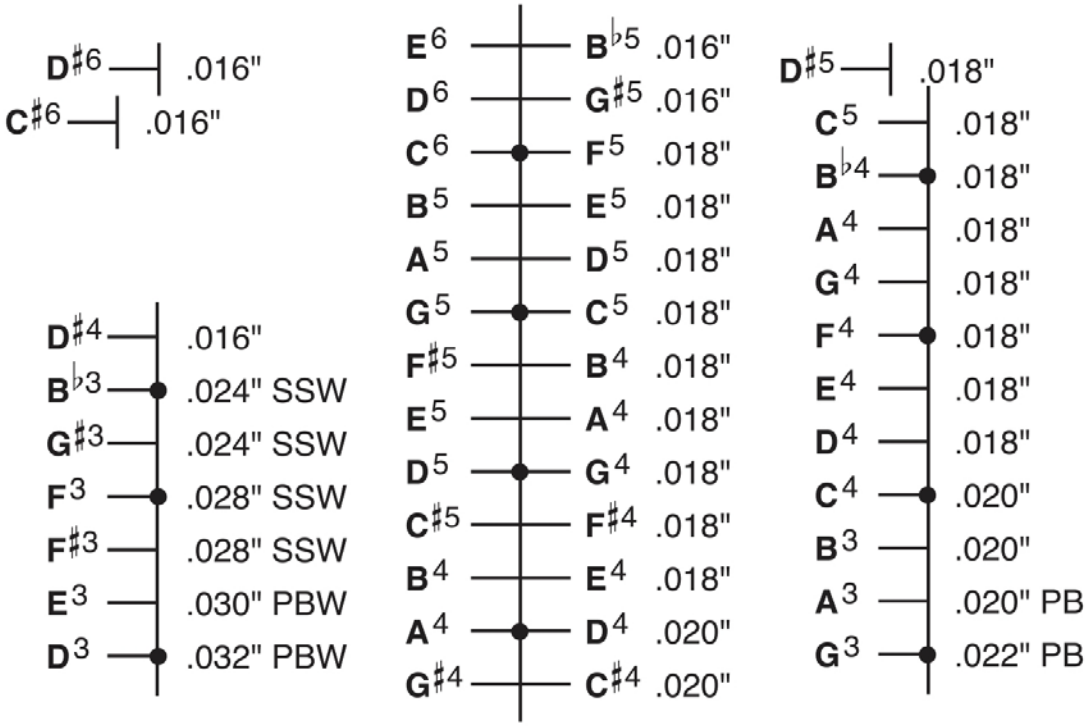


Range: 3 octaves (D^3 – E^6)

● = marked courses
PB = phosphor bronze wire
PBW = phosphor bronze wound

All strings are loop end. Wire gauges are shown in inches.
Unspecified strings are plain steel wire.
Small numbers indicate octaves (C^4 is middle C).

D300*



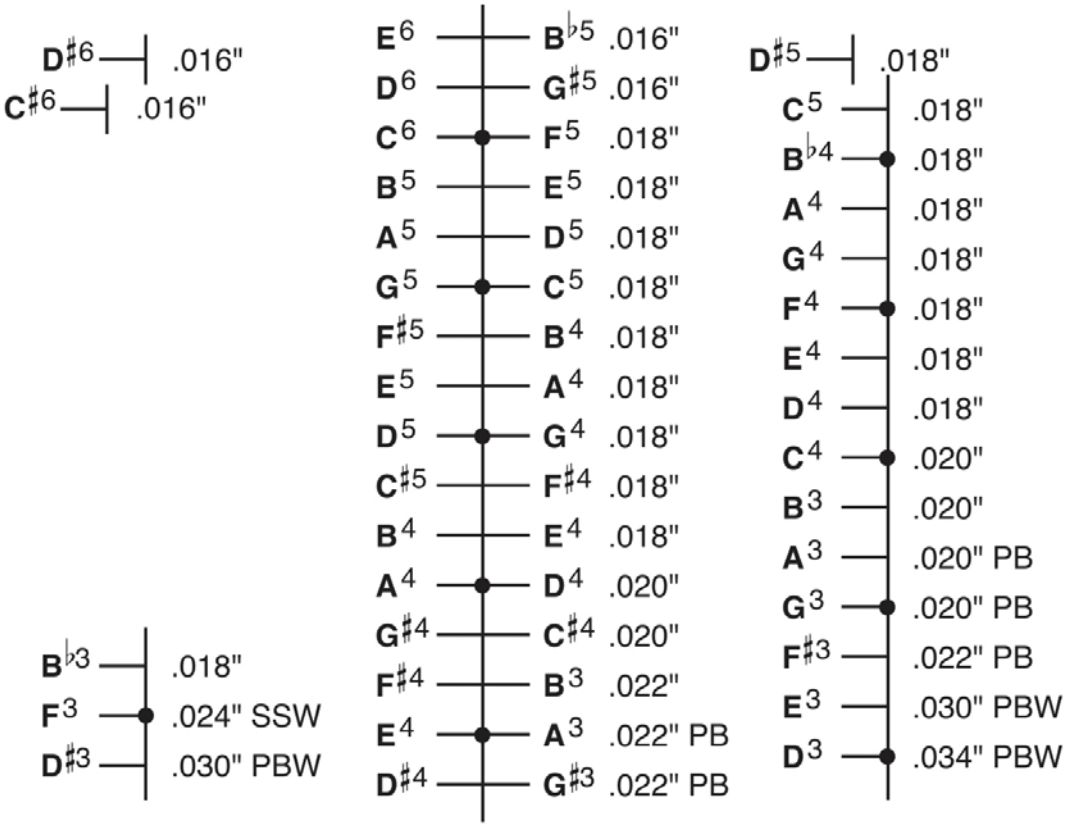
* For instruments after serial #13377. The serial number can be found on a tag inside the sound hole.

Range: 3 octaves (D^3 – E^6)

● = marked courses
PB = phosphor bronze wire
PBW = phosphor bronze wound

All strings are loop end. Wire gauges are shown in inches.
Unspecified strings are plain steel wire.
Small numbers indicate octaves (C^4 is middle C).

D500*



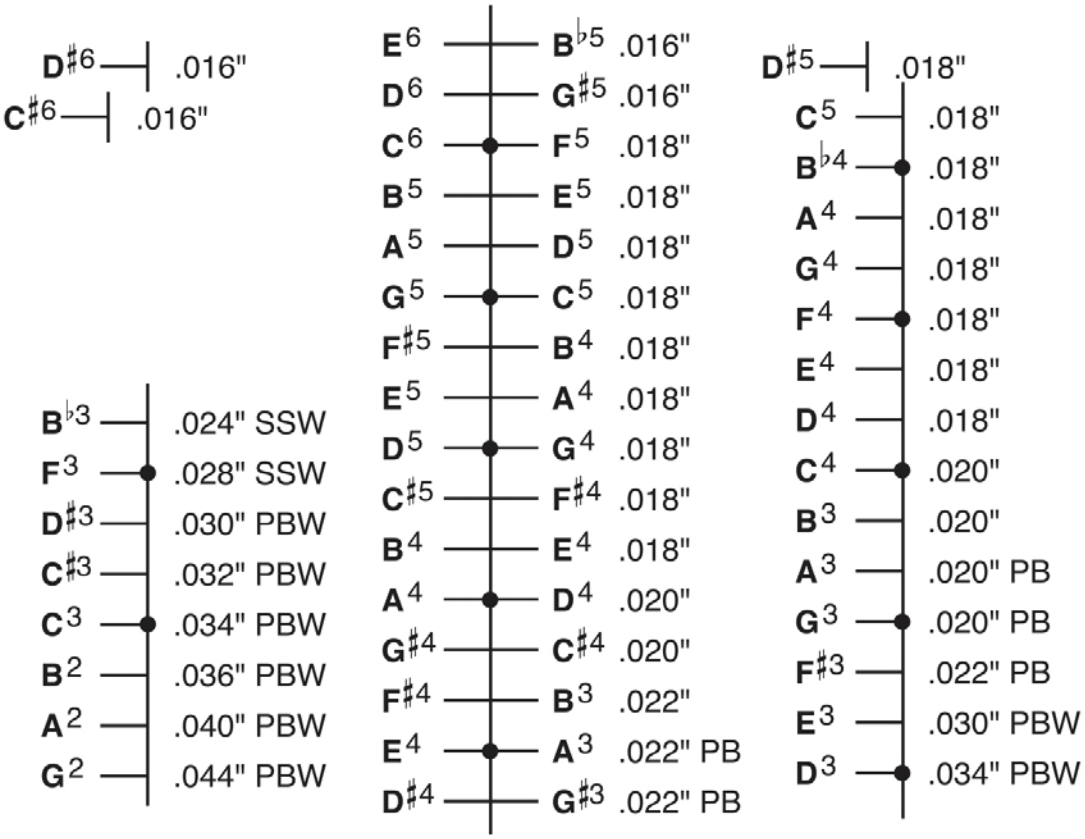
* For instruments after serial #13168. The serial number can be found on a tag inside the sound hole.

Range: 3 octaves (D^3 – E^6)

● = marked courses
PB = phosphor bronze wire
SSW = stainless steel wire
PBW = phosphor bronze wound

All strings are loop end. Wire gauges are shown in inches.
Unspecified strings are plain steel wire.
Small numbers indicate octaves (C^4 is middle C).

D550*

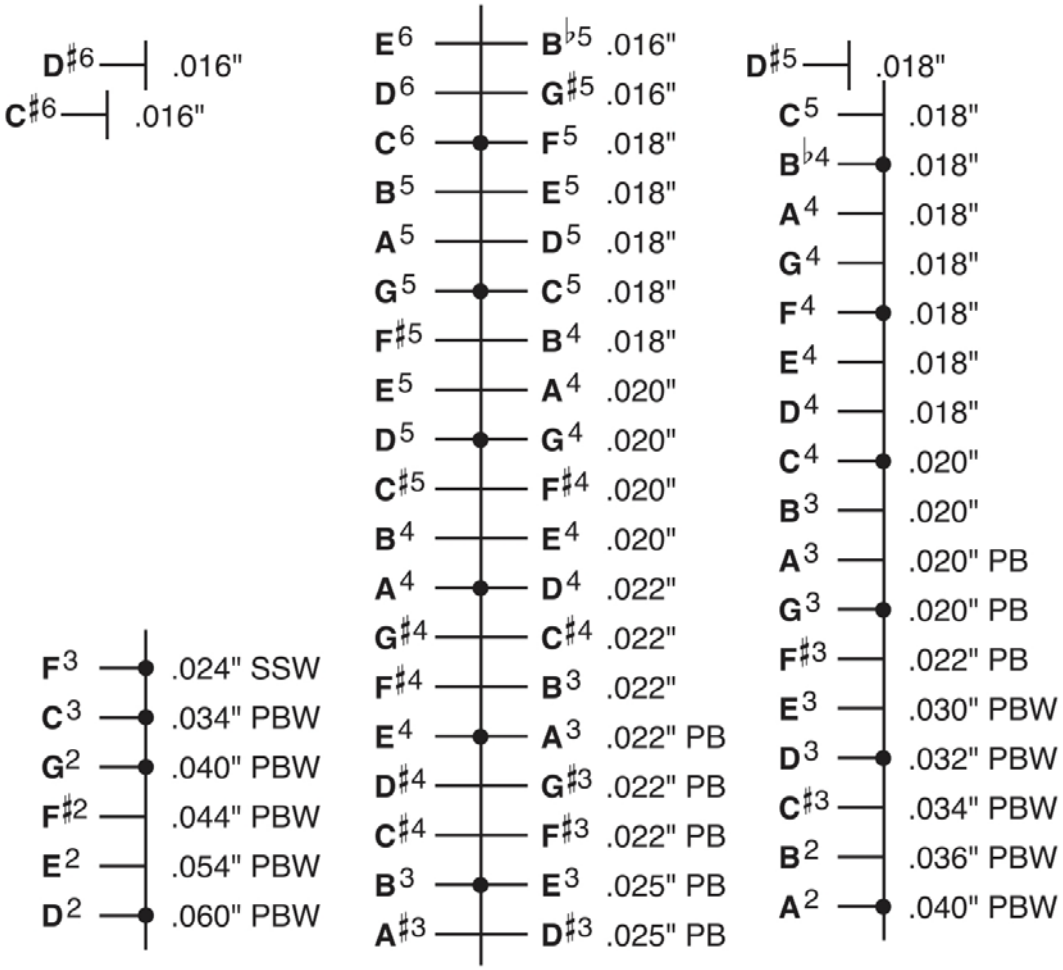


* For instruments after serial #13168. The serial number can be found on a tag inside the sound hole.

Range: 3½ octaves (G^2 – E^6)

● = marked courses
PB = phosphor bronze wire
SSW = stainless steel wire
PBW = phosphor bronze wound

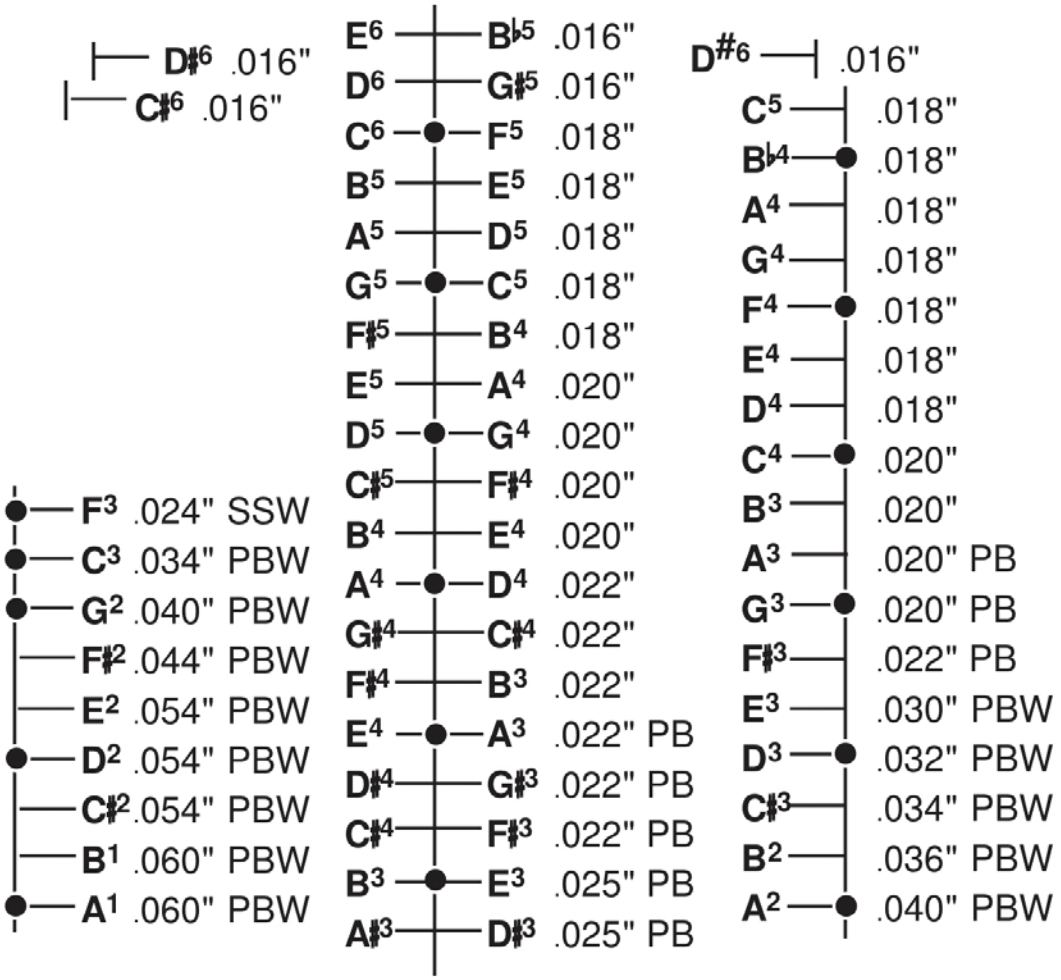
All strings are loop end. Wire gauges are shown in inches.
Unspecified strings are plain steel wire.
Small numbers indicate octaves (C^4 is middle C).



Range: 4+ octaves (D^2 – E^6)

● = marked courses
PB = phosphor bronze wire
SSW = stainless steel wire
PBW = phosphor bronze wound

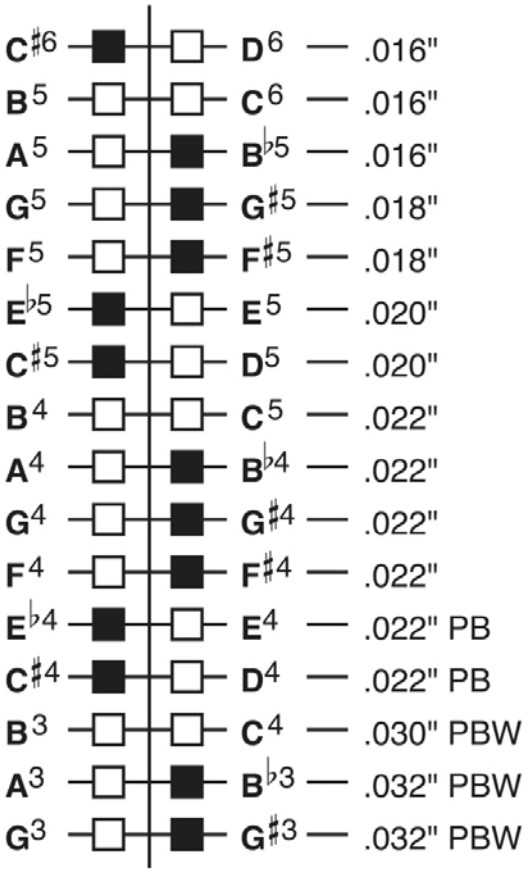
All strings are loop end. Wire gauges are shown in inches.
Unspecified strings are plain steel wire.
Small numbers indicate octaves (C^4 is middle C).



Range: 4½ octaves (A^1 – E^6)

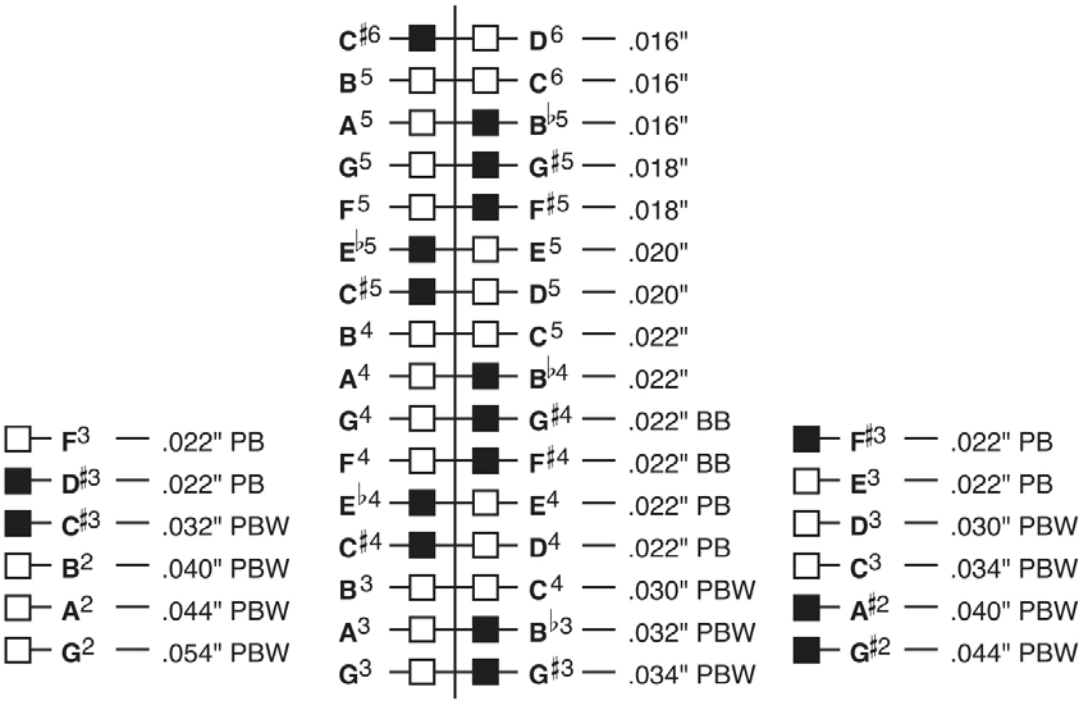
● = marked courses
PB = phosphor bronze wire
SSW = stainless steel wire
PBW = phosphor bronze wound

All strings are loop end. Wire gauges are shown in inches.
Unspecified strings are plain steel wire.
Small numbers indicate octaves (C^4 is middle C).



Range: 2½ octaves (G^3 – $C^{\sharp 6}$)
□■ = white and black bridge markers
PB = phosphor bronze wire
PBW = phosphor bronze wound

All strings are loop end. Wire gauges are shown in inches.
Unspecified strings are plain steel wire.
Small numbers indicate octaves (C^4 is middle C).



Range: 3½ octaves (G^2 – D^6)
□■ = white and black bridge markers
BB = Brite Bronze wire
PB = phosphor bronze wire
PBW = phosphor bronze wound

All strings are loop end. Wire gauges are shown in inches.
Unspecified strings are plain steel wire.
Small numbers indicate octaves (C^4 is middle C).

ダスティーにお尋ねください

ダスティーストリングスのハンマーダルシマーを楽しんでいただけることを希望しています。ダスティーは、ケース、スタンド、脚、ハンマー、本、DVD、チューニングレンチ、チューナーなど役に立つ様々なアクセサリーや教材をご用意しています。音を大きくすることをご希望ならピックアップをお付けすることもできます。ダスティーのホームページをお訪ねください。（www.dustystrings.com）
ご質問がありましたら、遠慮なく電話またはEメールでお尋ねください。

Dusty Strings
3450 16th Ave. W.・Seattle, WA 98119・(866) 634-1656
handcrafted@dustystrings.com・www.dustystrings.com